

近年我が国が近代国家として長足の進歩を遂げ、今日では社会基盤も法体系も、そして生活レベルも国際水準を上回っていることは、誰しもが認めることです。とは言うものの、欧米諸国にあって我が国に無いものがいくつもあり、それが



は、歴史や宗教、或いは風土や土地の記憶によって作られる「文化」であると言ってしまうればそれまでですが、言い方をかえれば「精神文化の交流」、或いは「人生の楽しみ方」といったものなのです。例えば、音楽と踊りで祝う自宅での結婚式、1年に1度の自分の日を友人と共に祝う誕生日、新しく購入した美術品をお披露目するためのパーティー、クリスマスシーズンに従業員全員が職場で行うパーティーなど、彼らの生活の中には、あまり形式や経費に気を遣うことなく、人と人がふれあう機会がふんだんにあるのです。人間交流に最も重要な役割を果たすのが、実は「口」な

のです。「口」というのは、飲食するほかに、おしゃべりや笑いなどの感情を表現する貴重な感覚器官でもあるのです。私は昨年オーストラリアのブリスベンに新設された話題の「クイーンズランド現代美術館」を訪ねましたが、全てのフロアーに立派なレストランがあるのを見ただけで驚かされました。日本であれば、少しでも多くの展示場を確保するため施工者も建築家も躍起となるどころでしようが、彼らはリラックスした雰囲気の中で、ワインを飲み、おしゃべりする場所を作るこの方により大きな意味

未熟な文化国家
美術評論家 金澤 毅

があると考えているのです。近代人は過度に進んだ物質文明の中で、経済価値と能率性に大きな価値を見出した反面、人間性や感性を軽んじてきた傾向があります。昼間のビジネス社会が利益追求の場であり、職場は常に情報と数字に支配される緊張感に満ちた世界ですが、ひとたび業務から解放されると人は放たれると人を作った人々が今日の社会を作っています。どうして近代化された生活の中で、芸術を仲介して交流する文化が育たなかったのでしょうか。また、いつまでも学習的習慣から抜け出せず、想像力と未知の世界への冒険心を

持っていて、外の世界とコミ

ユニケイトしようとはしなかつたのでしょうか。こうした状態では、何年かかって文化と文明とは密接な相互関係を持つことはなく、美術館と画廊はこれからの退屈な時間を過ごすことになるだろうと、私は思うのです。(G.N.A顧問)



山下清澄作品



舟田潤子作品

展示会に行こう!

ギャラリー巡りは楽しいですよ!きっとあなたの好きな作品にめぐり合えます。

オリエ、ギャラリー
東京都港区北青山2-9-16
TEL03-5772-5801
E-mail art@orie.co.jp

◆展示◆
◎野口真理
◎グラスワーク
展【25周年記念】
念【8/22】
9/3
◎小河朋
◎平面造形
作品展【25周年記念】
9/16
◎山岸征史・タビスト
リ展【25周年記念展】
10/20
◎佐伯和子・タビスト
リ展【25周年記念】
11/17

ギャラリー K
東京都港区六本木5-10-28
Tel.03-3402-6861
gallery-k@comet.con.ne.jp

◆展示◆
◎市川健治
◎ウラジミール・クッシュ
【7月】
◎尾張英之
【8月】
◎市川健治
◎藤原裕策展
◎安齋洋展【10月】
◎ウラジミール・クッシュ展【11月】
11/20



ウラジミール・クッシュ



安齋洋作品

アート・デ・アート ギャラリー
高槻市北園町14-4
Tel.072-685-0466
art-de-art@n-market.ne.jp

◆展示◆
◎平野はる
◎作品展【銅版画・アクリル画】
7/27
◎ベント / 7/27
◎D 15時間催
◎平野はるひと一緒に話そう!
14/14
◎中東剛展 8/26
◎野口明美銅版画展 10/7

アートゾーン神楽岡
京都市左京区吉田神楽岡町4
TEL075-754-0155
artzone@iris.eonet.ne.jp

◆展示◆
◎舟田潤子
◎P O R S T
◎A D I P A
【京都芸大在学生展】
8/16
◎海老塚耕一展 9/5
◎山下清澄展【銅版画出版記念】 9/26
◎松本敏幸ヴァイオリン制作展 11/4

G.N.A金沢親睦旅行 (3/7, 8)

前田家百万石の古都に21世紀美術館!

初日▼午前11時にホテルに集合。まずは腹ごしらえと東山茶屋街堂屋へ。もてなしに満ちた後、情緒あふれる武家屋敷を徘徊。さらに尾山神社、兼六園と前田家宝物展、再建された金沢城を見学。その後、本命の21世紀美術館へと向う。この新美術館は内と外がガラス一枚で隔てるオープンな美術館。館内立ち入り自由。これがいい。小難しい現代美術も身近に感じる。夕食はのどぐるや鴨のじぶ煮で大満足。

二日目▼四階建て七層の不思議な仕掛けが一杯ある忍者寺を楽しんだ。日蓮宗の寺で前田家の菩提寺だ。過剰防備の仕掛けを見ると利家は臆病者だったのかな? 旅行幹事の渡辺さん(美術サロンゆたか)に感謝の気持ちを込め、ありがとうごさいました。



21世紀美術館・タレルの部屋

ギャラリー・アコースター・ジュ
 香川県高松市扇島東町1803-2
 TEL 087-841-8200
 E-mail info@senyotei.co.jp

【展示】
 ◎ Group
 Intera
 rt 際展【鉄の
 彫刻、マンガ、
 顔料漆喰画、立
 体版画、ペー
 パーワーク、油、
 アクリル、ミッ
 クストメディア等 約30
 点】6/15-29

◎英国現代版画展【版
 画25点】7/10-21(無
 休)
 ◎安井頭太個展【小椋
 の硝子工芸展】手吹き
 ガラス約一五〇点】9月



日本でもよ
 く知られてい
 るキューバの
 国民的な画家ネルソン・
 ドミンゲス氏が4月に来
 日し、「平安への祈り」
 展が愛媛県松山市の三浦
 美術館で開催された。

ネルソン氏の作品は、
 「アフロクバニズモ」と
 いうキューバのアイデン
 ティティ、すなわち民
 族の成り立ちを主題とす
 る土着性を強く表す作品
 が多く、特徴的である。
 ヘミングウェイが傑作
 「老人と海」を書き上げ
 たことで知られるコヒマ
 ル海岸に住み、葉巻と人
 間をこよなく愛する画家
 である。
 ラテンアメリカの美術
 を専門に扱っているプロ

◎後藤肇個展：11月
 【開館・休日等】10
 00-17:00。但し、11月
 10:00-16:00

**みんなの力で
 GNA会員を
 募りましょう**

ANG
 プロジェクト
 アートマーケット

参加料は無料です。
 詳しくは下記プロジェクト
 ANGプロジェクト
 TEL 078-435-5710
 FAX 078-451-7166
 http://
 www.angproject.com/

GNA東京総会(4/16)開催

◎金子賢治氏(GNA顧問)のレクチュア
 ー 議題(重要課題)
 ◎19年度事業計画、20年度事業計画
 会計報告、企画案内、英国版画巡回展、
 ホームページ、国内外のアート展情報
 金沢21世紀美術館・親睦旅行勉強会
 GNAジャーナル3号、会員増強対策など
 など

議題の内、特に議論に

なったのはGNA共同企
 画への取り組み、アートの
 フェアなどの参加結果な
 どで積極的な意見交換が
 おこなわれた。ここでは、
 金子賢治氏のレクチュア
 の概略を紹介いたします。

**近代美術と近代工芸の関係
 国立近代美術館工芸館
 工芸課長金子賢治**

昨年30周年企画として
 「I・30年の歩み」・II・
 工芸の力ー21世紀の展
 望」を開催、美術と工芸
 の違いを根本的に考えよ
 うとした。我が国の工芸
 は長い歴史と伝統をふま

えつつ、時代や社会の変
 化とともに成長、変革を
 遂げ、今日、伝統工芸・
 創作工芸(日展系)・クラ
 フト・前衛工芸など、幅
 広い豊かな制作活動を続
 けている。陶、ガラス、
 染織、漆、金属などのい
 わゆる工芸の素材を出发
 点とした、工芸的なアプ
 ローチによる造形手法を
 「工芸的造形」と呼ぶ。
 その中で富本憲吉、清水
 九兵衛、森口華弘、八木
 一夫などから北川宏人、
 須田悦弘のような若手の
 作品までを展示閲覧した

が、いずれも伝統技術の
 上に創造的イマジネーシ
 ョンを展開しているの
 で、現代美術の括りで取
 り上げられている北川作
 品などと清水や八木など
 の間に素材の違いはあっ
 てもそれ以上の違いは無
 い様に思える。

美術館は合理化の波の
 中で市場化テストや指定
 管理者制度などを採用す
 るところが増えており危
 機状況にあり生き残り
 を図らなくてはならな
 い。

最後に、GNA会員に

よる工芸館見学計画を是
 非実現しようと言う
 ことになった。

編集後記 この2
 3年
 オークションやアートフ
 ェアが活況を呈している
 ようだ。その背景には中
 国、ロシア、中近東など
 のマネーがアート市場に
 流れてきているらしい。
 特に昨年当たりから日本
 の現代作家がターゲット
 になってくることだ。
 この傾向の火付け役は画
 廊の寵児ともいえる小山
 登美夫ギャラリーだろ
 う。小山氏は日本のア
 ト市場に絶望し海外に
 打って出たバイオニアで
 賞賛に値する。
 今では若手作家を売り
 出そうと国内外で開かれ
 るアートフェアに多くの
 ギャラリーがオファマー
 らしい。若手作家が世
 界に飛ばたくことは喜ば
 しい。しかし、粗製乱造
 にならないよう作家もギ
 ャラリーも気を引き締め
 たい。

それにしても多忙なた
 めか、GNA総会への参
 加が少ない。GNA会員
 の互いの繁栄のために
 アートフェアへの共同参
 加や共同企画を積極的に
 推進しないとGNAの長
 期的持続と繁栄は到底お
 ぼつかないのではと思っ
 次第です。(AZ)

モ・アルテにとって、は
 16年という長い年月ギヤ
 ラリーの看板作家である
 ネルソン氏に特別な思い
 がある。

今回発表した大作「平
 和への道」を制作するに
 あたっては、美術館付属
 の工房に1か月間滞在
 し、完成させた。平和へ
 の強い願いが込められ
 る5メートルのキ
 ャンバス作品は、正
 にキューバ人による「ゲ
 ルニカ」と言っている。
 三浦美術館(ヘミウラー
 ト・ヴィレージ)は、三
 浦保氏(故)が創業した
 機械製造会社が運営する
 美術館である。三浦氏自
 身、晩年を陶板作家とし
 て過ごした。自由な着想
 による大胆な構図と色使

い、さらに陶の持つテク
 スチャーと相まって現代
 書のように勢いがあり、
 熱く、そしてさわやかな
 印象すらある作品が特徴
 だ。三浦氏の長年温めて
 きた夢であった「芸術村
 構想」。地元で芸術家を
 招き、文化発展に貢献し
 ようというプロジェクト

そして御夫人から個展の
 お話をいただいた。隣接
 の旧工房には三浦氏の制
 作途中であった青い地色
 の陶板が残されていた。
 棚には釉薬(ゆうやく)が
 揃っており、すべてを自
 由に使わせていただけ
 ることになった。陶板は1
 枚が高一八〇cm幅70cmと
 桁はずれに大き
 い。だが厚みは
 3cmと極端に薄
 く、何枚かを連結するこ
 とでキャンバスのように
 大きな画面になり、釉薬
 で自由自在に描くことが
 できる。画家のネルソン
 にとっては絶好の素材と
 の出会いであった。技術
 者である三浦氏が発明し
 た特製の窯は、変形もな
 く均質に焼ける。美術表

現は技術や科学の力添え
 で更に高まる。主を失い
 しばらく火を絶やしてい
 た窯は、ネルソン氏によ
 り復活した。助手さんの
 的確なアドバイスを受け
 ながら、陶板作品「子供
 の夢」(6m x 2m)は
 完成した。中庭を見渡せ
 る屋外展示場に三浦氏の
 作品とともに設置され
 た。作品群は友情が主題
 であることが一目で伝わ
 り、一連に見える。

作品を通じての最初の
 三浦氏は他界。今日まで
 この縁が続いているこ
 とのほう不思議なくら
 いだ。だが、誰もがありが
 得ないこととは思ってい
 ない。なぜならば、古代
 から人間は、美術に人と
 人とを紡ぐ魔法の力があ
 ることを知っているから
 だ。我々もこの力に魅せ
 られ、20年間経った今も
 美術に関わり続けてい
 る。

「一人の作家を紡いだ魔法の力」
 プロモ・アルテ 古澤一洋